

2021年7月15日発行

第 113 号

エコ・リサ通信

特定非営利活動法人
埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

NPO 法人埼玉エコ・リサイクル連絡会 令和3年第17回通常総会 報告

日時：令和3年5月13日(木) 14:00~14:50

コロナ感染拡大防止のため、主たる事務所においてWEB会議システムを用いて通常社員総会を開催しました

- 1 社員総数 51名
- 2 出席社員数 書面表決者 51名 (35名及びWeb出席者16名を含む)
議 事
第1号議案 令和2年度(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)
事業報告書承認の件
第2号議案 令和2年度活動計算書、財産目録及び貸借対照表承認の件
第3号議案 令和3年度役員選任の件 新理事及び監事
第4号議案 令和3年度(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)
事業計画 承認の件
第5号議案 令和3年度活動予算 承認の件

3 議事の経過及び結果

第1号議案から第5号議案まで全て承認を頂きました。

任期満了に伴う新役員は以下の通り。

理 事	石川 恵輪 (再任)	大前 万寿美 (再任)	上領 園子 (再任)
	齊藤 勉 (再任)	佐藤 正和 (再任)	高木 康夫 (再任)
	高橋 茂仁 (再任)	轟 涼 (再任)	中澤 啓子 (再任)
	原田 史 (再任)	宮田 尚美 (再任)	
監 事	島田 憲一 (再任)	平田 繁 (再任)	

「県のプラスチックごみ対策について」

埼玉県環境部資源循環推進課 江原宏和

県が行ったプラスチックに関する調査結果やこれまでの取組をご紹介しますとともに、今年度から新たに開始した取組についてお話しします。

1 これまでの取組

◆ 河川におけるプラスチックに関する調査

県では、令和元年度に、上尾市の鴨川と川越市の新河岸川の2河川でごみを回収し、分類調査を実施しました。その結果、約8割が食品トレイなどのプラスチックごみでした。

また、県内5河川（荒川・元荒川・中川・入間川・新河岸川）10地点で実施した「河川のマイクロプラスチック調査」では、すべての地点でマイクロプラスチックが検出されました。分析の結果、タッパーなどに使われるポリプロピレン、レジ袋などに使われるポリエチレンなど生活に身近なものが多いことがわかりました。

◆ 埼玉県プラごみゼロウィーク

県では、令和元年度に初めて5月30日から6月8日の期間を「埼玉県プラごみゼロウィーク」に設定し、広く県民にプラスチックごみ問題の啓発と地域清掃活動への参加を呼びかけました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、河川や街中で清掃活動に取り組む方が安心して活動していただけるように「新しい生活様式における地域清掃活動10のポイント」を定めて、秋に実施しました。コロナ禍という状況でありながら、令和元年度の79団体を上回る83団体の参加がありました。

◆ 「知る」「使う」「分ける」プラスチックごみを減らすライフスタイルの実践

プラスチックごみ問題を知ってもらうため、県ホームページに「3Rでごみを減らそう！学習コーナー」を設け、クイズやワークシートを公開しています。

また、マイバッグやマイボトルなどの利用を呼び掛け、ワンウェイプラスチックの使用削減を働きかけています。

さらに、使い終わったプラスチックが資源となるよう、市町村の分別ルールに従ってきちんと分けて捨てることや自動販売機の側のリサイクルボックスには決められたものだけを捨てるなどの呼びかけを行っています。



一般社団法人 繊維リサイクル協会

<http://tera-jpn.or.jp/index.html>

◆ 若者によるプラスチック削減対策について

社会貢献への関心が高く、今後の社会の担い手ともなる若者に、企画段階から携わってもらおうプラごみ削減対策を昨年度から行っています。

第1回目として、戸田市の荒川河川敷において、ごみ拾いイベントと海洋プラスチック問題に関するクイズを行いました。

コロナ禍にも関わらず、5企業に協賛をいただき、13大学からの参加がありました。この取組はNHKやYahoo!で紹介され、SNS等でも拡散されました。

◆ 事業者と連携した取組について

令和2年7月のレジ袋有料化にあわせ、県内小売店舗にレジ袋削減のチラシやポスターを掲出しました。また、10月の3R月間に合わせ、そごう大宮店とコラボした啓発キャンペーンを開催し、プラスチックごみに関するパネル展示やクイズラリーを実施しました。

また、9都県市で共同し、小売りや製造などの各事業者の省資源に向けた取組を紹介し、ごみの削減に向けた消費行動を提案するキャンペーンを毎年実施しています。

2 今年度から新たに開始した取組

◆ プラスチック資源の循環利用モデルの促進

事業の概要としては、①企業、行政、消費者団体が連携し、出口戦略を見据えた循環利用モデルを構築するためのプラットフォームを設置、②ライフスタイルの変革への意識啓発の実施、③再生可能プラスチックの効率的な回収方法の検証です。

需要を見据えたりサイクル製品の商品化によるプラスチック資源の循環利用モデルを構築し、持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。

▶ プラットフォームの設置

回収したプラスチック製品を素材とした再生製品は継続的な需要につながらず、環境配慮の象徴として作られている例が多くあります。

また、プラスチックには一般に使用されているものだけでも100種類以上あります。

そこで、どの種類のプラスチックを回収し、何を作ればビジネスとして成り立つか、出口戦略を見据え、継続的な資源循環につながる製品づくりを促進します。

➤ ライフスタイルの変革への意識啓発

企業等による製品の開発とともに、プラスチックのリサイクルを促進する消費者の行動も循環利用のためには重要です。

情報発信力の高い若者に人気のある企業と連携し、小売店舗における店頭回収などのキャンペーンを実施し、循環利用に関する意識啓発とリサイクル製品の需要喚起を図ります。

➤ 再生可能プラスチックの効率的な回収方法の検証

リサイクルを進めるためには、それにふさわしい素材が必要です。そこで、商品納入後の空のトラック（静脈ルート）を活用した小売店での店頭回収、市町村による集団回収や公民館等での回収など、既存の仕組みを活用した効率的な回収方法を検証します。

プラスチックの循環利用を促進するため、できる範囲で「混ぜればごみ・分ければ資源」に取り組んでいただくようお願いします。

税理士法人 T&M ソリューション

毎月第2水曜日は「税の無料相談日」 お気軽にお問い合わせください！

お問合せ ☎03-5829-9664 E-mail info@tms.or.jp



読売旅行

読売旅行「あなたの街から」いい旅 いつも これからも

☎03-6859-4343 FAX : 03-6859-4433

司法書士竹内啓修事務所

お問合せ ☎048-963-6055 不動産・商業登記全般

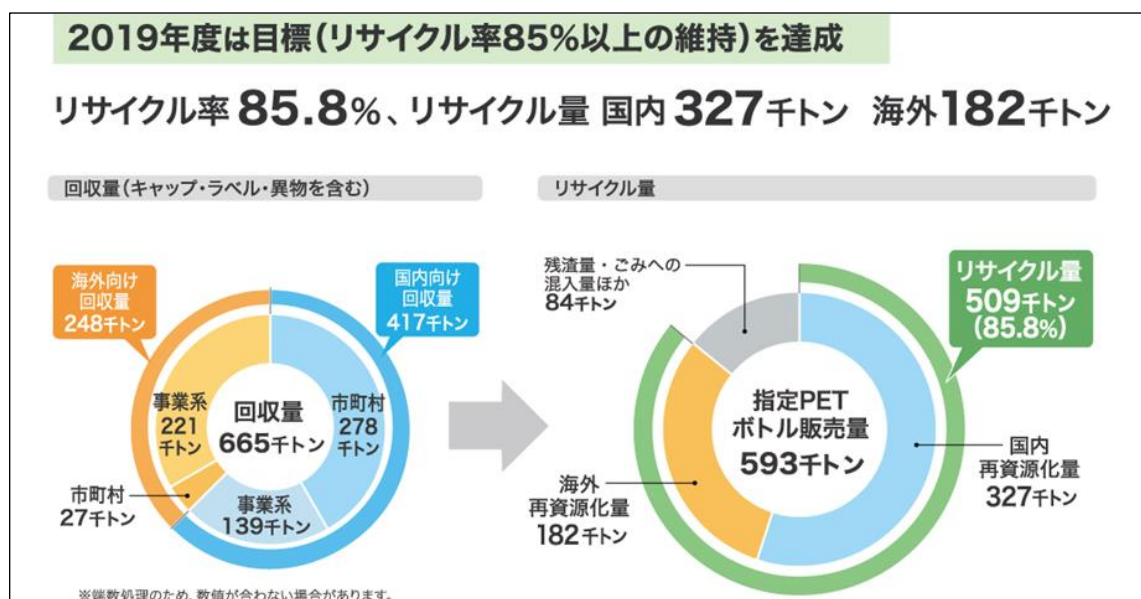
ペットボトル多くなりましたね！

ごみを知ろう委員会

この時期（梅の実る頃）になると我が家の近くのお店で大瓶の米酢が販売されます。久しぶりに購入しようと持ち上げると…、なんだか軽い！そう！瓶ではなくなってしまった。ペットボトルだったのです。最近では水やジュースなどの飲料だけでなく、酒類やお醤油そしてお酢までがペットボトルに入っていて売られています。

軽くて割れず大変便利なペットボトルですが、利用後は皆さんどのようにしていらっしゃるのでしょうか？軽くすすいでキャップやラベルを取りリサイクルに出していらっしゃるのでしょうか？

ペットボトルリサイクル協会のHPではなんと 85.8%のペットボトルがリサイクルされていると書かれています。（下図↓）



[PET ボトルリサイクル推進協議会 \(petbottle-rec.gr.jp\)](http://petbottle-rec.gr.jp)

しかし、しかし、焼却ごみの中にもたくさん入っているような気がします。私たちがリサイクルしていないペットボトルはどの位あるのでしょうか？

そこで、私の住む世田谷区ではごみの組成分析調査（*1）をしていて大変詳しく調べられていますので、その 2019 年版を用いて気なる量を計算し、目安になる量を推計してみる事にしました。（残念ながらコロナ過の影響で去年は調査できなかったということで、2020 版はなし）

*1 世田谷区家庭ごみ組成分析調査 2019 による

1) ペットボトルの平均的な重さは？（*1）

可燃ごみの中にあつたペットボトルの重さは 29.2 g

リサイクルとして収集されたペットボトルの重さは 29.9 g

因みに中澤家で集めたペットボトルの重さは、30.0 g 我が家は野菜ジュース等が多く厚手のものが多かったからでしょうか？ キャップは 2.1 g ラベルは 1 g

2) 世田谷区ではどの位燃やされている？ (*1)

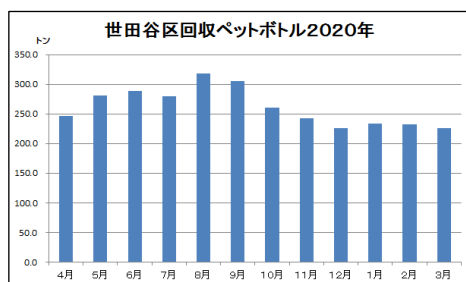
ペットボトルが焼却ごみの中に占める割合は 0.6%

可燃ごみの排出日量は 467.0 トンという事ですので約 2.8 トンのペットボトルが毎日燃やされていることとなります。

また、この数字から推計すると、二人家族の家庭では、1週間に1本位は焼却ごみに出しているという計算となります。汚れの落ちないペットボトルもあるでしょうからこれくらいの焼却は仕方のないことかもしれませんが、我が家の捨て方と比べると少し多いかも？さらに、世田谷の二つの焼却場の年間処理量から計算すると約 1,226 トンのペットボトルが燃やされています。

3) 家庭から出された時の様子は？ (*1)

世田谷では年間約 3,100 トンのペットボトルが回収されリサイクルされています。大変きれいな状態で容器包装リサイクル協会に持ち込まれるそうですが、リサイクルに出されているペットボトルの約 30%にキャップやラベルがついているようです。キャッ



プやラベルは手作業で取られ、汚れたボトルは取り除かれています。一日 8 トン以上のペットボトルの選別作業は大変なことだと思います。これから夏になると量も増えます。(←左図世田谷区) 飲み残しなどが入っていると悪臭の原因にもなります。気をつけたいところです。

4) 商店の回収協力について

我が家の近くのスーパー（ライフ）では店内にペットボトルの粉砕機が設置されており、商店会のポイントがつく仕組みになっています。（ライフのポイントではありません）観察したところとてもきれいでした。日常の管理はスーパーさん世田谷区のリサイクル事業の補助金で設置されたという事です。回収は世田谷区という事で皆さんの協力でリサイクルがなっています。

5) ペットボトルのリサイクルはかなりうまくいっていると思います。

けれどまだまだ捨てられているものはたくさんあります。また、洗浄中に出るマイクロプラスチックの量も少なくありません。心して購入したいと思います。

中澤 啓子

資源循環推進課コーナー

令和元年度の一般廃棄物（ごみ）の排出及び処理状況等について ～ごみの削減及びリサイクルに向けたライフスタイルを～

埼玉県内の一般廃棄物（ごみ）の排出及び処理状況等（令和元年度）について、調査結果を取りまとめました。

令和元年度のごみの総排出量は、平成30年度に引き続き増加となりました。これまで長期的には減少傾向でしたが、近年は下げ止まりから微増傾向になっています。また、リサイクル率は近年減少傾向にあります。

ご家庭での食品ロスの削減やリサイクルできるごみの分別の徹底等、今一度、ごみの削減やリサイクルを意識したライフスタイルを実践していただくようお願いします。

1 ごみの排出状況（概要）

ごみの総排出量は233万トンで、前年度に比べて1.0%増加しました。

また、生活系ごみ排出量は169万トンで、前年度より1.4%増加しました。

なお、令和元年度の全国のごみの総排出量（4,274万トン）は、前年度から0.02%増加しています。

2 ごみの処理状況

（1）リサイクル量（マテリアルリサイクル）

リサイクル量は55.2万トンで、前年度に比べて0.4%増加しましたが、リサイクル率は23.7%で、前年度に比べて0.2ポイント減少となりました。

なお、令和元年度の全国のリサイクル率（19.6%）は、前年度から0.3ポイント減少しています。

（2）最終処分量

最終処分量は9万1千トンで、前年度と同量でした。県民1人1日当たりの最終処分量は33.7グラムで、前年度に比べて0.6%減少しました。

最終処分量がこのレベルを維持した場合、現状の残余容量（182万m³）は約31年分に相当します。

3 県民の皆様へのお願い

限りある資源を有効活用し、地球への環境負荷を減らすためにも、ごみの排出削減や再資源化を推進していく必要があります。また、ごみを最終的に埋め立てる県内の最終処分場の残余容量には限りがあります。

食べ残しや賞味期限切れ食品の廃棄などの食品ロスを減らし、使い捨てプラスチック製品の使用を控えるとともに、リサイクルできるごみの分別をしっかりと行うなど、できるだけごみを出さないライフスタイルを心掛けましょう。

埼玉県的一般廃棄物（ごみ）の排出及び処理状況等は、県ホームページで公開しています。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0507/20120809.html>



令和3年度研修見学会のお知らせ

今年の研修見学会は、小規模な見学会を開催し報告は動画をZOOMで配信する予定です。第一回は、市民が立ち上げた所沢ソーラーシェアリング等を見学予定です。会員の皆様が、日ごろの活動の中で共有したい事業などがございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。

編集後記： 影響の大きかった人、比較的小さかった人、いろいろですが、コロナで私たちの生活パターンはすっかり変わってしまったように思えます。

それでも、これまでの問題が待ってくれているわけではありません。

地道な活動を続けるしかないのでしょうか。継続が大事かなと思います。：轟 涼